

## 令和4年度

### 第2回 草津PAと連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会 会議録

■日時：

令和5年2月27日（月）13時30分～15時30分

■場所：

キラリエ草津 3階 303会議室+Zoom オンライン

■出席委員：

岡井委員、奥委員、高橋委員、喜多委員、北村委員（代理）、野村委員、棚橋委員、大塚委員、松田委員、池田委員（代理）、野田委員、渡辺委員（代理）、北川委員（代理）、平尾委員（代理）、松澤委員（代理）、木村委員、寺田委員（代理）、打田委員、松尾委員

■欠席委員：

塩見委員、河本委員、吉川委員

■事務局：

建設部 東岡技監、赤田副部長

都市計画部 一浦副部長

都市地域戦略課 西田参事、福留参事、小島課長補佐、寺尾係長、山本主査、山口主任

■傍聴者：

0名

#### 1. 開会

---

【東岡技監】

本日は年度末で御多用の中、本検討会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

本検討会では草津市における滋賀県南部エリアの活性化に向けた基本構想を策定することを目的としておりまして、なかでも、高速バスと路線バスの交通結節機能を検討するというのは、滋賀県内でも初の試みでございます。広域交通手段である高速バスとの結節機能は広域への波及が期待できることから、各分野の関係機関の皆様に参加いただいているところでございます。

今回は、これまで内部的に検討してきた草津PA周辺の交通結節点に関する取組および今後の進め方について報告させていただき、様々な御意見をいただいたところでございますが、特に、交通結節点の具体化に向けた需要予測、機能配置、整備効果等については、全国のバスターミナルプロジェクトなどに見識の深い国に調査していただく予定でござ

います。

そのために、まず市としまして、エリアが目指すまちづくりを基本構想として示す必要がございます、「にぎわい・活力」「安全・安心・防災」「交通・交流」の観点で、現状と課題の分析を行ってまいりました。また、この分析を受けて、草津 PA と連携したまちづくりについての目標や基本方針の整理をさせていただいたところがございます。

詳細については、後ほど担当からご説明いたしますが、皆様のそれぞれのお立場からの貴重な御意見を賜るとともに、基本構想の策定に向けて活発な御議論をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

<会議の公開について異議なし>

## 2. 第1回検討会での意見、対応方針

---

### 【事務局】

<資料について説明>

<特に意見なし>

## 3. 基本構想策定にかかる現状・課題および対応方針の整理

---

### 【事務局】

<資料について説明>

### 【副会長】

事務局からにぎわい、防災、交通の課題を提示された。しかし、たとえばにぎわいについて今の指定管理団体に対して指摘するようなことを議論しても検討会の趣旨にそぐわない。にぎわい、防災、交通の分野において、草津 PA と関わりがある形で意見を示していただくと有意義になっていくと思う。例えば、リダンダンシーを議論するのであれば、大型バスが高速道路外から入れるようになれば災害時の JR 区間途絶に対応できるものになる、と草津 PA のあり様が示されるようになる。決して発言を制約するものではない。

### 【会長】

南草津ビジョン等の関連計画は説明いただいたが、具体的な議論にはなっていない。本来はこの検討会は草津 PA にバスターミナルができる可能性が高いとの前提でまちづくりを考えればいいと思っていたが、それが確実とは言えない中で、基本構想という表現になっている。様々な関係者の方に来ていただいているが、草津 PA で具体的にできることを議論すべきなのか、もう少し大きな話を議論するのが明確になっていない。

**【副会長】**

冒頭の事務局挨拶の中でもバスターミナルには触れられていた。草津 PA のありようを前提にしながら、にぎわいや防災に向けて草津 PA をどのように活用できるかについて議論した方が、民間の関係者の方にも分かりやすい。そうすることで草津市としても国にどういう要望をすべきかなども明確になっていく。

**【会長】**

おそらくバスターミナルができるという前提で草津 PA 周辺をどのようにしていくべきかという具体的な議論をさせていただくという理解でよいか。

**【事務局】**

昨年度まで市ではにぎわい、防災、交通という視点で検討していたが、国ではバスターミナル等に係る調査を市の交通の課題に応じる形で検討いただく建付けとなっており、バスターミナルありきではないが、バスターミナルも含めて検討していただいている。この検討会においては草津 PA と連携した拠点整備にあたってどのような機能を強化していけば課題解決につながるのかを議論いただきたい。

**【会長】**

おそらくバスターミナルができるだろうという中で、草津 PA 周辺をどうしていくのがよいか、ご発言頂ければと思う。

**【委員】**

前提を確認したいが、草津 PA 周辺の課題として、知名度が低いとか、回遊がしにくいなどが挙げられているが、草津 PA そのものについては客観的事実が記載されているだけで、分析がない。

また、1 回目の検討会では、国の調査と並行して基本構想の策定を進めていると理解していたが、今の議論の中では、地域の意見が先という話もあった。どのような経過になっているのか。併せて、前提条件として、どのようなポテンシャルが草津 PA にあるのかを確認したい。

**【事務局】**

国も今年度から調査に着手されているが、まずは市としてどういうまちづくりをしたいのかを示してほしいと言われている。それを踏まえて、市の課題への対応のうち交通について考えたいとのことだった。

**【委員】**

我々が前提とすべき草津 PA の制約としては、現状の駐車場の利用可能台数などがそれにあたるのか。それを基に草津 PA がどのように活用できるかを議論すればよいのか、他にも駐車場の回転率などのデータをお示しいただけるのか。

**【事務局】**

国で需要予測とか整備効果を調査いただいているが、前提として、現在不足している駐車台数について、ネクスコが駐車場を拡張することにより改善を図る予定であり、その拡

張に合わせて草津PAをどのように活用するかという議論である。キーワードの1つとしてバスターミナルはあるが、拡張した駐車場が地域と繋がるとどういことができるのかを議論していただきたい。

**【委員】**

テーマに「草津PAと連携した」とあるが、草津PAとの関わりがあまり見えてこない。

前回の検討会で、ポテンシャルを活かすためのアクションに繋がっていないとの意見があったが、企業の集積そのものをポテンシャルと呼べるかどうかは検討の余地がある。就労者は工場と家を往復するような通勤をしていたり、勤務も2交代、3交代の形態をとっていたりと通勤形態や就労形態が一樣ではない。

**【委員】**

もう少し地域一帯でどういったことが必要かということを検討すべきではないか。個人的には文化ゾーンにある施設はよい施設だと思う。そこをもっとアピールして、施設をうまく使うようなことを考えていけるよい。草津PAと文化ゾーンは近いので、相互利用できるような仕組みをつくっていけるとよい。この地域を利用している人からどういったものがあるといいのかを引き出していけるとよいのではないか。

**【会長】**

目的を持って訪れる人はいるが、立ち寄る施設がなく目的地のみで帰る動きになっていて、距離的には近いが利用されていないのが現状。にぎわいを作るために、どういう機能があればよいかという意見があればいただきたい。例えば、回遊性や手段がないという話になったときに、公共交通という話になると思うが、バス事業者としてはどうか。

**【委員】**

弊社は南草津駅を中心にバスのダイヤを引いていて、企業や大学を軸に路線を設定している。びわこ文化公園都市内は路線網が脆弱になっているが、拠点や人流が生まれるのであれば、バス台数が多いエリアであるため、路線の拡充もできていると思っている。

**【委員】**

瀬田駅からバスを運行しており、もともとは大学と駅間だけだったが、昨年からは龍谷大学の後に大学病院に行く便を運行している。もう少し立命館大学のほうにつなげるなど、事業者間で調整しながら進めていければと思う。

**【会長】**

事業者間の連携がうまく取れ、利用者からすれば回遊性があるようなバスネットワークになればいいと思う。行く目的として、どのような機能があればよいか。

**【委員】**

一例としてはPark-PFIに対する期待を持っている。大阪城公園のPark-PFIの事例では、事業者は市に年間2億円程度の納付金を納めるとともに、飲食・物販の複合施設を作り事業を成り立たせている。企業が自社のブランドを前面に押し出して運営する真の民間活用である。ぜひ、びわこ文化公園でも有効に機能させていただきたい。

回遊を生むということを考えてときに、バス輸送だけの問題ではなく、草津PAを核としてAIによる交通マネジメントで人の移動が自由にしやすくなる地域にするということも考えられる。もともと目的がないところに人の動きは生まれないので、地元の方々の移動の動機をどう作り上げていくかを考えるとよいのではないか。草津PAを核とした新しい実証実験が始まっていくという流れをぜひ作っていただきたい。

#### 【会長】

びわこ文化公園都市の将来ビジョンの検討委員会が開催されていたが、そこでも、様々な施設が魅力的で評価も高いが、移動手段がないので回遊がないという状況で、社会実験的でもミニバスやキックボード、シェアサイクルなども含めて検討できたという話をしていた。公共交通が十分ではないエリアにおいては、手段を作るところから始めないといけないのではと思う。事業者としては採算の問題もあるが、公共サービスという観点で市としてどうか。

#### 【事務局】

目標には「滋賀県南部エリアの新たな玄関口」、前提として「交通環境の充実」がある。公共交通網形成計画を来年度見直す予定であるが、エリアとして公共交通への転換を後押ししていきたい。そのために、草津PA周辺にどのような機能があつたらよいか、既存の施設とどう連携していくべきかをご議論いただきたい。Park-PFI等も活用し、回遊手段を充実させるとともに、バスターミナルの機能等で公共交通の利便性を高め、エリア全体ににぎわいを波及させていきたい。

#### 【委員】

現状も学生の通学はJR+路線バスであり、バスが混雑し定時性確保に苦慮しており、草津PAと高速道路を活用できれば混雑緩和できるのではと思う。そうすることで、学生が草津PAに集まってにぎわいが生まれてくる。人の移動を変えていけたらというのは将来的な話として私も思っている。

#### 【委員】

びわこ文化公園都市将来ビジョンの議論でも、交通問題は以前から言われてきている。現在でも、JRの駅だけでなく、京阪の六地蔵駅や京都市内（三条、四条駅）からも龍谷大学に向けてバスを運行している。それらのバスと電動キックボード等のびわこ文化公園都市内の近距離移動を併せて草津PAをハブにできないかという話が挙がっていた。

アウトラインの構成について、現状・課題の後に、こういうものが必要だよねという具体的な例示があつて、目標、基本方針というような流れにしてはどうか。

#### 【会長】

立命館大学の場合、中書島駅からのバスは、京阪沿線の学生による一定の利用があり、高速道路が近いためJR経由に比べかなりメリットがある。立命館大学やびわこ文化公園と草津PAをつなぎ、そこからさらに高速バスで様々なところにつながるとよい。現状ではネットワークが限定されているが、全体の中でどんなネットワークがふさわしいのか、その

中で事業者が何を担うのかの順に議論できるとよい。

草津 PA 周辺に求められる機能については、何があるとよいかという投げかけではなく、このような機能はどうかという提案が事務局からあれば発言しやすいのではないかと。

住民の立場ではどういったものがあると良いか、意見があれば教えていただきたい。

#### 【委員】

滋賀医科大学はあるが、民間の個人医院が少ないという点は若干地域の不安点である。

周辺は山手幹線の開通が迫り、若い方も多く、草津 PA が拠点となることで草津の中ではひらけたまちになる可能性があると思う。拠点ができてにぎわいできれば、地域の中で必要なものがおのずと展開してくると思う。

#### 【事務局】

ここで委員から事前にご意見をいただいているのでご紹介します。

「路線バスネットワークの再編」というキーワードを入れたほうが良い。単に拠点を整備するだけでは何も変わらない。高速バス利用者は自動車を運転しないと思うので、車を利用できない、利用したくない人向けに、カーシェアよりもバスからバスに乗り継ぐことができる拠点にすることがよいと思う。そのために、県内全体でネットワークを考えられるのがよい。

また、各大学の学生が大学を超えて交流できる場になるとよい。また、実験やサークル活動、セミナー等で活用できるようになると良い。さらに、常に高速道路を利用できる手段があると、JR 不通時も県外に移動できるため、リダンダンシーの観点も重要である。

ポテンシャルをどのように活かし、どのように課題を解決する、ということが具体的に見えたほうがよい。

#### 【会長】

大学生は車を持っていない人が多く、路線バスは必須だと思う。また、大学生の交流という観点もあってよい。また、診療所が少ないとあったが、拠点といえる場所なのであればクリニックモールなども検討の余地がある。

リダンダンシーの観点では JR の不通も頻繁に発生しているため重要になってきている。

大前提として公共交通の重視を掲げることは非常に良いことと思うが、単に公共交通の利用促進だけではなく、一般車の利用が不便なので公共交通を使う、というように仕向けることも考えられる。

#### 【委員】

今後は草津市と連携して、平野南笠線の整備にも取り組んでいきたいと思っている。

「草津 PA と連携した」というキーワードの中で、ハイウェイオアシスのようなものを考えていると思う。草津 PA を核とした地域振興を考えていくと、高速道路の利用者が隣の施設に自由に行くことができる、地域の方々が草津 PA を利用して全国に移動できる、降り立った方が草津の中心街等へ移動できるといった広がりが見られると自身では整理した。バスターミナルもその手段の一つと理解した。こういったまちを目指すというビジョンをも

う少し明確に打ち出していくと、より具体的な話ができると思う。

**【事務局】**

そもそもなぜ草津 PA なのかというところだが、草津田上 IC も近いという立地条件もある。ターゲットとしては住民の方が京阪神方面に行ける、学生が京阪神方面から来ることができるというポイントである。出入りが多い地域なので、南草津方面に行く交通が減れば、渋滞緩和にも繋がると考えている。12 万台が走行する名神高速道路のポテンシャルを活かしつつ、整備する施設については地域の方にも利用されるような飲食、物販機能、地域のサードプレイス等を検討していきたいと考えている。さらに観光客の回遊の拠点にもできるとよい。

導入機能を例示したほうがよいとの声があったが、バスターミナルありきにならないよう他の機能も併せてあまり具体的には示していなかった。今後は可能なところから示していきたい。

**【会長】**

もともと PA は経由地であり目的地ではなかったが、最近の休憩施設はハイウェイオアシスのように高速を利用しないでも目的地として利用できる、利用されるようになっている施設も多い。高速バスの利用に関しては、まずはそうして PA に来る人を増やして、知ってもらうという観点も重要。

**【委員】**

防災に関して NEXCO 西日本との協定の話を進めている。資料 2-2 の P23 に防災施設の話があるが、トイレ付きのバスなども活用しながら避難者用の休憩場所や病院への輸送に活用できないかという話をいただいている。

近年は雪による被害が増えており、草津 PA に防災拠点があれば役に立つ。しっかりと進めていただきたい。

**【会長】**

普段から知っている場所でないとなかなか避難所として使われにくいとの研究もあり、にぎわいや交通面も併せて重要になってくると思う。

---

## 4. 市民アンケートおよび今後の事業スケジュールについて

**【事務局】**

<資料について説明>

<特に意見なし>

---

## 5. 閉会

**【一浦副部長】**

本日の議事は以上とさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきあ

ありがとうございました。また引き続きご理解ご協力のほどよろしくお願いたします。

以上